

事務事業名	市民館の管理運営事業	事業期間	2010 ~	年度	係内番号	03
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	連絡先	632	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0303	文化・芸術の振興と推進		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0000	複数の柱にまたがる事業		
			実行計画	03	文化芸術推進計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予算事業名	市民館費	会計コード	01	款	10	項	05	目	02	事業	02
-------	------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 茅野市民館は、市民の生涯学習及び地域文化創造の交流拠点として平成17年に開館した。構想から管理運営計画に至るまで市民と協働で策定し、ホール・美術館・図書室などさまざまな機能を持つ文化複合施設として指定管理者制度による管理運営を行っている。開館から14年が経過し、施設の知名度、利用率は向上している一方で、市民の文化芸術活動に関する興味、関心はまだ低いと考えられることから、市民館を核とした身近な文化・芸術活動の発信と充実を図るため、指定管理者と連携し、事業の充実と環境の整備を行っていく。

現状と背景
 (どうして)
 市民館の管理運営は指定管理者制度により行っているため、頻繁な連絡調整を行い意思疎通を図ることが必要である。また、適正に管理運営がされているかについてモニタリングによる監視を行い指導・助言を行う。自主事業の評価・市民館全般に関する市民の意見・要望の把握は市民館協議会において実施する。

目的
 受益者 (誰のために)
 利用者、来館者
 対象 (直接働きかける)
 指定管理者
 意図 (どんな状態にしたいか)
 茅野市の文化芸術活動の拠点として情報の発信を行うと共に、創造の実践や鑑賞の機会の充実を図り、心豊かな市民を育み、文化の香り高いまちづくりに寄与する。施設管理においては、駐車場の確保、計画的な修繕、設備の更新により、市民の満足度の高い環境を維持していく。

手段・方法
 (どうやって)
 指定管理者との連絡調整を密に行い、きめ細かく施設の状況把握をする。また、全庁的に導入しているモニタリング形式にそってモニタリングを行う。
 市民館協議会において、実施した自主事業に対する評価を行う。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	モニタリング数	モニタリング数	数	年間のモニタリング数
	2					
	3					
	変更履歴					
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	市民館の入館者数	入館者数	人	年間の入館者数	150,000
	2					
	変更履歴					

実	項	目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
施	事業費等(a)			円	199,557,195	190,213,000			
	財源内訳	国庫支出金	円						
		県支出金	円						
		地方債	円						
		その他特定財源	円	2,400,000	1,600,000				
	一般財源	円	197,157,195	188,613,000					
況	活動指標	モニタリング数	目標	数	12	12			
			実績	数	12				
			達成率	%	100.00	-	-	-	
	-	-	目標	-					
			実績	-					
			達成率	%	-	-	-	-	
	-	-	目標	-					
			実績	-					
			達成率	%	-	-	-	-	
	D	成果指標	入館者数	目標	人	150,000	150,000		
				実績	人	171,331			
				達成率	%	114.22	-	-	-
目標				-					
O	-	-	実績	-					
			達成率	%	-	-	-	-	
考									

事務事業名	市民館の管理運営事業		事業期間	2010 ~	年度	係内番号	03
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係		連絡先	632	

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	（成果） 変果 動指 要標 因分 ）析	市制施行60周年記念コンサート、美術展ともに多くの入場者があり年間入場者数は過去最高の17万人を超えた。また、(28・29年度14万8千人)著名なアーティスト、作家による公演等が複数あったことにより、今まで足を運んだことのない市民も訪れるきっかけとなり、文化意識の向上が図られた。					
	総合評価	指定管理者との頻繁な連絡調整により適正な管理運営が実施されているかを確認し、課題の共有と改善に努めている。懸案事項であった漏水対策、駐車場拡幅、掲示板改修、舞台設備更新の各工事を実施し機能性と利便性の向上が図られた。					
	課題	施設・設備の修繕が増加していることから通常のモニタリングでは把握できない劣化状況について委託業者からの点検報告を受けるなど、より密な連携が必要。また、主催事業に対する市民館協議会の評価方法と意見反映方法の検討が必要。					
改革・改善の方向性(ACIT)	翌々年度方向性	成果 コスト	拡充 拡大				
改革・改善の方向性の内容	成果 コスト	施設・設備の経年劣化と耐用年数の到来が迫っていることから計画的な修繕、更新が必須である。中長期改修計画を基に劣化状況の把握(点検)と更新工事を実施していく。また、消費税増税に伴う指定管理料の見直し検討、2020年八ヶ岳JOMONライフフェスティバル関連経費の有無の検討も必要。					

作成担当者	北澤 ゆき子				
最終評価責任者	藤森 隆				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	青少年のための優良芸術鑑賞講座	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	05
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	連絡先	632	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0303	文化・芸術の振興と推進		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える		
			実行計画	03	文化芸術推進計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予算事業名	芸術鑑賞講座事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	02	事業	04
-------	-----------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
優れた芸術の鑑賞を通して、児童・生徒の好奇心や感性、創造性を育むとともに、自ら文化芸術活動に取り組むきっかけを作る機会とする。

現状と背景
(どうして)
市内の小中学校において、演劇鑑賞と音楽鑑賞の巡回公演を一年ごと交互に実施し、全ての児童・生徒が身近な場所で優れた文化芸術を鑑賞、体験する機会を作る。児童・生徒の好奇心や感性を伸ばし育てる取組として継続する。印象的な文化芸術体験は生涯にわたって文化芸術に対する関心を持ち、理解を深めていくための基礎となることから、全ての児童・生徒が多様な文化芸術を身近に感じ触れることのできる取組を積極的に進める必要がある。

目的
対象
受益者
(誰のために)
市内の小中学校の全児童・生徒
対象
(直接働きかける)
市内の小中学校の全児童・生徒

留意点
(どんな状態にしたいか)
優れた芸術鑑賞を通して、児童・生徒の好奇心や感性を伸ばし、心豊かな人間性を育むとともに、自ら文化芸術活動に取り組むきっかけとなることを目指す。

手段・方法
(どうやって)
「青少年のための優良芸術鑑賞講座」は小中学校における「中級鑑賞教室」を兼ねていることから、中級校長会鑑賞教室担当校長・各小中学校芸術担当教諭と連携し、鑑賞作品の選定、公演準備、当日の運営、反省までの一連を行う。公演は5月中旬から下旬頃に各学校を巡回する形で実施し、鑑賞料として児童・生徒からも費用負担を徴収する。(一人当たりの負担率は70%~90%程度とし、850円~900円程度を目安とする)また、9月下旬に次年度の鑑賞作品の選定を小中学校芸術担当教諭の協議により行う。各団体から随時鑑賞作品の情報提供があることから、パンフレット等を収集・整理し、選定の協議までに10作品程度の候補を挙げておく。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	優良芸術鑑賞講座の内容の充実	打合せ会開催数	回	年間の打合せ会開催数	2
		2					
		3					
変更履歴							

評価指標の作成	成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	芸術鑑賞講座鑑賞率の増加	芸術鑑賞講座鑑賞率	%	鑑賞者数/対象者数×100	100
		2	学校アンケートによる満足度の増加	鑑賞満足度	%	学校アンケートに満足と回答した学校数/鑑賞講座実施学校数	100
		変更履歴					

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
			事業費等(a)	円	4,629,858	3,761,000		
財源内訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円	3,448,800	2,798,000				
状況	活動指標	打合せ会開催数	目標	回	2	2		
			実績	回	2			
			達成率	%	100.00	-	-	-
	-	-	目標	-				
			実績	-				
			達成率	%	-	-	-	-
	-	-	目標	-				
			実績	-				
			達成率	%	-	-	-	-
	成果指標	芸術鑑賞講座鑑賞率	目標	%	100	100		
			実績	%	98			
		達成率	%	98.00	-	-	-	
鑑賞満足度		目標	%	100	100			
	実績	%	-					
達成率	%	-	-	-	-			
備考								

事務事業名	青少年のための優良芸術鑑賞講座	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	05
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	連絡先	632	

中 評 価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事 後 評 価 (C H E C K)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果要因分析	学校行事として位置付けているため、当日の欠席者以外は鑑賞することが出来、100%に近い鑑賞率となっている。				
	総合評価	鑑賞教室担当教諭による打ち合わせ会で選定した、和泉流「おもしろ狂言らいぶ」を実施したが、日本の伝統芸能である能楽に触れる貴重な機会となり、児童・生徒、教諭ともに好評であった。 演劇鑑賞と音楽鑑賞を隔年で実施しているが、舞台装置の関係上、演劇公演の年の方が経費がかかる。児童・生徒からも個人負担を徴収しているが、今年度は900円と例年より高めの金額となったため、やや高いという意見が複数あった。				
	改革・改善の方向性(ACIT)策	児童・生徒が身近な場所で優良な芸術を鑑賞・体験できる貴重な機会であり、今後も長く継続していくことが重要。好奇心や感性を伸ばし、芸術活動に興味と理解を深めるきっかけとなるよう情報収集に努め、資料を揃える。 市費の総負担額は150万円を超えない範囲(要保護・準要保護家庭の児童・生徒分は市が負担)、児童・生徒の個人負担率は70～90%(850円～900円程度)、という基準の中で、心に響くより良い演目を選定していく。学校アンケートによる満足度調査は2019年度より実施する。				
改革・改善の方向性(ACIT)策	成果 コスト	拡充 現状維持				

作成担当者	北原 啓司				
最終評価責任者	藤森 隆				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	ファミリー演劇鑑賞事業	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	06
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	連絡先	632	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0303	文化・芸術の振興と推進		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0303	つながりを支える		
			実行計画	03	文化芸術推進計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予 算 事 業 名	ファミリー演劇鑑賞事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	02	事業	05
-----------	--------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
親子・家族で初めての舞台を体験するきっかけを作り絆を深めるとともに、豊かな心を育み、地域に文化芸術を楽しむ風土を醸成することを目的として、市民に優れた演劇公演を安価で提供する。市民との協働による実行委員会で演目の選定、PR、当日の運営を実施することにより、文化芸術に理解や関心を持つ市民を増やしていく取組とする。

現状と背景
(どうして)
市内では優良な演劇を鑑賞する機会が少ないことから、初めて舞台に触れるきっかけとなるような演劇公演を安価で実施し、親子で演劇を楽しむ心を育てるとともに、市民の文化芸術に対する理解と関心を高め、文化の香り高いまちづくりに寄与していく。

目的
対象
受益者
(誰のために)
市内の幼稚園・保育園・認定こども園の園児、小中学校・高校の児童・生徒、及びその親と市民全般。

対象
対象
(直接働きかける)
鑑賞の対象者は市内の幼稚園・保育園・認定こども園の園児、小中学校・高校の児童・生徒及びその家族とし、実行委員会への参加は子育て関係団体を中心とした市民全般に呼びかける。

意
図
(どんな状態にしたいか)
親子・家族で本物の舞台に触れる機会を安価で提供することにより、家族の絆を深め、心豊かな市民を育む。また、実行委員会形式で実施することにより文化芸術への理解や関心の高い市民を増やしていく。

手段・方法
(どうやって)
市民との協働による「ファミリー演劇鑑賞実行委員会」で演目の選定、PR、当日の運営等を行う。公演は茅野市民館を会場とし、7月上旬に保護者会役員等の協力を得て実施する。公演団体との連絡調整は事務局が担当し、決定事項は実行委員会で諮る。また、各種公演団体からの提案や情報提供について整理、研究し演目選定の参考とする。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	鑑賞会の広報活動	鑑賞会チラシ配布数	枚	保育園～中学校までの全児童・生徒の人数(平均値)
	2					
	3					
	変更履歴					
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	演劇鑑賞参加者数の増加	鑑賞チケット購入者数	人	茅野市民館の収容人数560人	560
	2	鑑賞者の満足度の増加	鑑賞者満足度	%	鑑賞アンケートで次回も参加したいと回答した人の割合	100
	変更履歴					

実 施 状 況	項 目		単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	財 源 内 訳	事業費等(a)		円	1,000,000	900,000			
国庫支出金		円							
県支出金		円							
地方債		円							
その他特定財源		円							
活 動 指 標	一般財源		円	1,000,000	900,000				
	鑑賞会チラシ配布数	目標	枚	7,500	7,500				
		実績	枚	7,500					
		達成率	%	100.00	-	-	-	-	
	-	目標	-						
		実績	-						
		達成率	%	-	-	-	-	-	
	-	目標	-						
		実績	-						
		達成率	%	-	-	-	-	-	
	成 果 指 標	鑑賞チケット購入者数		人	560	560			
		実績		人	478				
達成率		%	85.36	-	-	-			
鑑賞者満足度		%	100	100					
備 考	実績		%	86					
	達成率		%	86.00	-	-	-		

事務事業名	ファミリー演劇鑑賞事業	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	06
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	連絡先	632	

事業 評価 価値	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果動指要標因分)	実行委員会でチケット販売目標数を450とし、保育園・学校等へのチラシ配布のほかPTA総会、こどもまつり、保育園への出張等様々な場所で積極的なPRに努めた結果、目標を上回る478とすることができた。(29年度358)また、アンケートによる満足度も86%と高く次年度のリピートも期待できる。				
	総合評価	積極的なPRにより、昨年を120人上回る方に舞台を楽しんでいただくことができた。また、当日は実行委員・保護者会役員等多くの方に裏方の仕事を担ってもらうとともに劇団員との交流を通し、演劇への興味や理解を深めることができた。				
	課題	親子で初めての舞台を体験するきっかけをつくる、という事業の趣旨を実現するためにも、多くの方が足を運びたいような演目の選定が重要となる。実行委員会において研鑽を積むような機会(研究視察)も必要となってくる。				
改革・改善の方向性(ACIT)	成果やコストの方向性の内容	拡充 現状維持				
策	「親子・家族で楽しめる演目を、気軽に購入し、本物の劇場で鑑賞する機会」としてこの事業に変わるものはなく、今後も継続していくことが望ましい。市全体として、文化芸術への関心がまだ希薄であると考えられることから、市が関与し、安価で優良な演劇を提供する場が必要である。実行委員会が企画・運営することで地域の文化力の向上に役立てることができると、今後も公民協働で取り組んでいくことが望ましく、年度ごとの公演内容に合わせた負担金により運営を行っていく。					

作成担当者	北原 啓司				
最終評価責任者	藤森 隆				
最終評価年月日	2019年5月17日				